

様式2

会議結果のお知らせ

1 開催した会議の名称

令和5年度第2回大分県立歴史博物館協議会

2 開催日時

令和6年2月13日（火）14:00～16:00

3 開催場所

大分県立歴史博物館 会議室

4 出席者

【委員】

渡邊委員（会長）、上野委員（副会長）、鬼塚委員、河野委員、旦部委員、松田委員、和田委員、須永委員、山本委員、高崎委員、松原委員、原田委員（zoom）

【事務局】

古田館長、田口総務課長、菅野学芸調査課長、村上企画普及課長、平川主幹学芸員、小屋主任研究員、原田主任研究員、井研究員、植田研究員、小野主事

5 公開、非公開の別

公開

6 傍聴人数

なし

7 議題及び結果

【議題】

- (1) 令和5年度事業の実施状況について
- (2) 令和6年度事業計画（案）について
- (3) その他

【結果】

- (1) 事務局からの説明に対して質疑があったが、特に異議はなく、承認された。
- (2) 事務局から概要を説明し、質疑応答の後、承認された。

8 主な意見

○宇佐市観光協会は宇佐高校とコラボし、高校生が宇佐神宮を英語で案内できるようになることを目標にインバウンドナビゲーターというものをここ数年実施している。1年間に7回ほど実施するので、そのうち1回は歴史博物館で宇佐神宮について学ぶことを取り入れることが可能。またツアー以外の外国人の来館者が増えた場合は、観光協会に英語のガイドもいるので、相談していただければ協力できる。

- （歴史博物館の活動について）児童生徒たちに広めていきたいが、新聞はなかなか子どもたちが読まないで、SNS等活用するなど広報に工夫が必要。
- 中津市はアーカイブ講座をしているが、高校生にも参加してもらおうと各高校を回るがなかなか難しい状況である。武士の花押をつくるというワークショップはすごく人気がある。古文書講座も講座というよりは、うつくしい歌を書くことができるというような違ったアプローチで実施すると人が多くなっていくのではないか。
- TOSのゆうわくワイドなど中継場所に（歴史博物館を）使ってもらい、テレビで放送されれば人が来るようになるので、そのような働きかけを宇佐市にしてみてもどうか。
- インバウンドについて東京国立博物館では、館に来て展覧会をみてもらうだけではなく、その後現地にもってらえるような仕組みを作っていこうと取組をしている。
- （古文書講座について）少数でも若い人材が熱中するような環境を確保していくことも重要な課題。
- 高校で崩し字を読むという授業をやっていて、歴史の授業の前に国語の授業でコラボをすると学校側も（出前講座等）受け入れやすいのではないか。またそこが入口となって、普段勉強している部分と合わせていきながら関心をもってもらうことも大切。
- （歴史博物館の）一般向けの必要な情報がアクセスしにくい。ホームページに掲載していないと思われるのでアクセスしやすいようにすれば観覧者も増えてくるのでは。また、英語のホームページもわかりやすく掲載すると外国人観光客も利用しやすい。
- 特別展と平常展の入場料が別々になっているが、セットで販売した方がよいのでは。
- バーチャルミュージアムについて小学生はタブレットを全員もっているので、授業でアクセスすれば閲覧数が増えるのでは。

9 会議の資料名一覧

- (1) 令和5年度第2回大分県立歴史博物館協議会 次第
- (2) 資料

10 問い合わせ先

大分県立歴史博物館総務課

電話番号 0978-37-2100